

今号の ボランティアグループ紹介 coconoma(このま)

●活動の内容について教えてください。

● 毎週月曜日の午後に金沢市小橋町のゲストハウスで不登校支援に関する情報交換、交流の場として「coconomaカフェ」を開催しています。不登校児童本人や保護者をはじめ、教育関係者、地域住民など様々な方に参加していただいております。通常2〜5名くらいの方が県内外からいらっしゃいます。アットホームな雰囲気のなか、みんなでおしゃべりをしたり、お茶を飲んでのんびりしたり各自で自由な時間を過ごしています。

また、必要な方には行政支援やフリースクール、親の会などの情報を提供しています。スタッフはカフェを利用してみようかなという方にも雰囲気が伝わるように、話題にあったことなどを毎回ブログで発信しています。

●ボランティア活動をしてやりがいを感じる時はどんな時ですか。

● 回を重ねるごとに参加者さんが元気になり、「居心地良かったよ」、「また来るね」などの声をかけていただいたときはやりがいを感じます。参加者さんに笑顔になってもらうことが一番の支援になると考え日々活動しており、参加者さんが笑顔になることで自分たちも元気をもらっています。

●最後にメッセージをお願いします。

● まわりから不登校を理解してもらえずに苦しんでいる方は多いと思います。支援の方法は1つだけではありません。coconomaカフェで様々な方の意見を聞くことで、ちょっとした「気づき」につながればいいなと思います。

また、coconomaでは新スタッフも募集しています。不登校支援に関する知識がなくても、人の話を聞くのが好きで、参加者さんといっしょに楽しめる方であれば大丈夫です。まず、来て雰囲気を見るだけでも大歓迎です。coconomaカフェではお茶とおやつ、ゆったりとした空間を用意してお待ちしています。

【連絡先】 松木 陽子(まつき ようこ) 電話 090-6025-0493

メール coconomacafe@gmail.com HPアドレス <https://www4.hp-ez.com/hp/coconoma>

このコーナーでは、金沢市内で活動しているボランティアグループを紹介します。

今回のボランティアグループに興味のある方は、連絡先までお問い合わせください。

また、金沢ボランティアセンターでは、「ボランティア活動がしたい」、「ボランティア情報が欲しい」などの相談に応じています。お気軽にご相談ください。



障害児・者施設での ボランティア募集情報

ボランティアが初めての方も大丈夫！ボランティア募集のお知らせです。

余暇活動のお手伝い

【内 容】 障害児の余暇補助、外出引率、敷地内の環境整備、高齢者のサークル活動の補助などのお手伝いをしていただける方を募集しています。

【活動日】 月〜金曜日 10:00〜15:00、16:00〜21:00

土日祝日 10:00〜21:00(日時応相談)

【連絡先】 Share(シェア)金沢 金沢市若松町セ104-1 電話：076-256-1010
担当：谷口、牧野

児童との関わりのお手伝い

【内 容】 放課後等デイサービスのお手伝い(レクリエーション、散歩、外出の付き添い、室内遊び、食事介助など)をしていただける方を募集しています。

【活動日】 月〜金曜日(祝日除く) 14:00〜18:00 土曜日 9:00〜17:00

学校休暇期間(日・祝日除く) 9:00〜18:00 1時間から活動できます。

【連絡先】 センチュリー児童デイサービスきよかわまち
金沢市清川町3-7 吉田ビル1階 電話：076-241-1145 担当：西村

車いす移動介助、食事介助のお手伝い

【内 容】 利用者さんの車いす移動介助、食事介助のお手伝いや、余暇を楽しんでいただく活動のお手伝いをしていただける方を募集しています。

①レクリエーションのお手伝い、車いす移動介助、食事介助など
②入浴介助(女性限定で募集)

【活動日】 ①月〜木曜日 10:00〜16:00 金曜日 10:00〜15:00(日時応相談)

②水・木曜日 10:30〜11:30、13:30〜15:00(日時応相談)

【連絡先】 パッチワーク 金沢市土清水3-242-1 電話：076-205-8311 担当：能川

本会へのご寄附について

本会では、皆様からのご寄附を受け付けています。

今後とも、皆様の温かいご支援をお願いいたします。

皆様からのご寄附は、地域福祉活動やボランティア活動推進のため活用させていただきます。

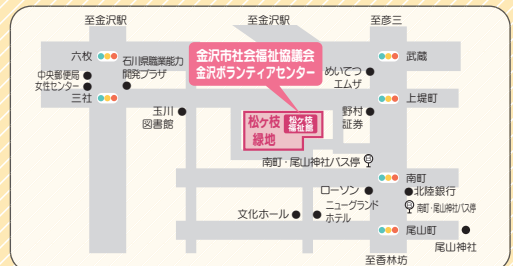
※寄附者には税制上の優遇措置があります。

【福祉ボランティア基金】

積立額 **63,234,280 円**

(平成30年10月31日現在)

金沢市社会福祉協議会へのアクセス



【住所】 石川県金沢市高岡町7-25

金沢市松ヶ枝福祉館内

武蔵ヶ辻・近江町市場バス停から徒歩5分 南町・尾山神社バス停から徒歩3分
環境のために公共交通機関を利用しましょう

金沢市 社協情報

はじめてみませんか？
ボランティア

No. **169**
2018.11.30

平成30年度 共同募金運動ポスターコンクール入賞作品



祝 石川県教育委員会賞
志賀町立志賀中学校2年
居田 さん



祝 石川県知事賞
羽咋市立羽咋小学校6年
平場 さん



祝 石川県共同募金会会長賞
石川県立羽咋工業高等学校3年
出雲 さん

たくさんのご応募
ありがとうございました！



平成30年度 ボランティア講座 参加者募集！

初めてボランティアをする方や、福祉に関心のある方、ボランティア活動の幅を広げたい方を対象にボランティア講座を開催します。興味のあるテーマを選んで、新たな一歩を踏み出しませんか？参加を希望される方はお電話でお申し込みください。

定 員 各テーマごとに15名(先着順)

申込・問合せ先 金沢市社会福祉協議会／金沢ボランティアセンター 電話076-231-3725

テーマA 「こども食堂に行ってみよう！」

こども食堂の地域における役割や子供の貧困対策について学んでみませんか？

実際にこども食堂を訪問し、ボランティアや地域の方と交流します。

日 時：①平成31年1月16日(水) 14:00〜15:30
②(1)平成31年2月7日(木) 17:30〜18:30または18:45〜19:45
(2)平成31年2月21日(木) 17:30〜18:30または18:45〜19:45
(3)平成31年2月23日(土) 9:00〜14:00(時間応相談)

場 所：①金沢市松ヶ枝福祉館1階 生きがい活動室(金沢市高岡町7-25)

②(1) (2)かなざわっ子nikoniko倶楽部(金沢市新神田4-4-5)

(3)平和こども食堂(金沢市平和町2-12-35)

講 師：かなざわっ子nikoniko倶楽部 喜成清恵 氏

その他：①②の両方の参加をお願いします。

①の出席時に②の中から一日選択します。

①は参加費無料。②は参加費300円必要です。

テーマB 「ブラインドサッカーを体験しよう！」

パラリンピックの正式種目にもなっている視覚障害者と健全者が力を合わせてプレーするサッカーです。サッカー初心者も大歓迎！参加費無料！気軽に体験してみませんか？

日 時：平成31年3月10日(日) 14:00〜16:00
場 所：全天候型グラウンドS-Stadium(金沢市若松町セ104-1 シェア金沢 E-7棟)

講 師：ツエーゲン金沢BFCメンバー

テーマC 「盲ろう者を知っていますか？」

盲ろう者とは、目と耳の両方に障害を併せ持つ方です。盲ろう者の方から経験談を聞いたり、様々なコミュニケーション方法に触れながら、盲ろう者を支えるボランティア活動について学んでみませんか？参加費無料！

日 時：平成31年3月16日(土) 10:00〜12:00

場 所：金沢市松ヶ枝福祉館1階 生きがい活動室(金沢市高岡町7-25)

講 師：宮永聖明 氏、楠本弘子 氏(石川盲ろう者友の会)

今号の内容

●ボランティア講座のお知らせ……………1 ページ
●生活に困窮する人の自立に向けた支援……………2、3 ページ

●ボランティアグループ紹介……………4 ページ
●ボランティア募集情報・ご寄附の報告……………4 ページ



生活に困窮する人の自立に向けた支援

金沢自立生活サポートセンター

生活困窮世帯の増加と背景

病気、失業、介護、離婚、借金…。複数の要因が連鎖してあっという間に家計が行き詰ることがあります。

また、非正規雇用の増加などで、経済基盤が不安定となり、経済的に困窮する世帯が増えていると言われてい

ます。さらに、地域には、働きたくても働けない、住むところがない、社会生活になじめず家に引きこもっているなど、様々な課題を抱え、社会的に孤立し、適切な支援やサービスを受けられないまま生活を送っている人もいます。

見えづらい貧困問題

「8050問題」という言葉をご存知でしょうか。80代の親が50代の子どもの生活を支えるという問題で、背景には、子どものひきこもりの長期化があります。「ひきこもり」という言葉が社会に知られるようになった頃は、10代・20代の若者の問題とされていました。それから約30年が経過し、当時の若者が40代～50代、その親が70代～80代となり、経済的に限界を迎えているケースもあります。

子どもの貧困

厚生労働省によると子どもの相対的貧困率は13.9%(2015年)と、7人に1人が貧困状態で生活をしています。

習い事や塾に行けない、クリスマスなどの季節の行事をしたことがない、親が夜遅くまでパートをしており、一緒にご飯を食べる機会が少ないなど、子どもにとっての大切な経験やつながりが経済的な理由などで奪われていることがあります。

以前であれば、家族や地域の支え合いで対処してきたことが、誰にも相談できないまま、地域から孤立し、問題が深刻化するケースもあります。

暮らしにおける人と人とのつながりが弱まる中、様々な困難に直面した場合でも、誰もが役割を持ち、お互いが配慮し存在を認め合い、そして時に支え合うことで、孤立せずにその人らしい生活を送ることができるような社会としていくことが求められています。

暮らしの相談窓口

平成27年4月に生活困窮者自立支援制度がスタートし、全国の自治体に相談窓口が設置されました。

「金沢自立生活サポートセンター」では、生活に困窮している人のあらゆる相談に応じています。

仕事がなかなか見つからない、借金の返済が多く今の収入だけでは生活が苦しい、家賃や公共料金(電気、ガス、水道代など)を滞納している…。

このような経済的な困りごとや就労などについて、専門の支援員が課題等を整理しながら、自立に向けた支援を行っています。

また、中学生の高校進学等に向けた支援と社会的な居場所づくりにも取り組んでいます。

低所得世帯等に対して一時的に必要な資金を貸付する「生活福祉資金」の相談・申請も受付けています。



(金沢自立生活サポートセンター職員)

相談事例

生活困窮者自立支援制度を利用したケース(例)



Aさん(38歳男性) —長期ひきこもりのケース—

Aさんは、母親と2人暮らし。高校を中退後、一時アルバイトを経験したもののすぐに辞めて家に引きこもるようになりました。母親(80歳)は、もともと病気がちで足腰も弱くなってきています。母親の遺族年金が家計の中心になっています。

社会参加から就労へ

私(Aさん)は、アルバイト先をトラブルで辞めてからは、母親を介護することで、自分の役割がここにあると思うようになり、特に就職する必要性を感じなくなっていました。しかし、支援員と何度も話すうちに、ボランティア活動に興味が湧いてきました。試しに近所の高齢者福祉施設に行ってみたところ、入居者から感謝されたことがうれしくて、継続して活動するようになりました。徐々に自信を取り戻し、ハローワークでの就職活動を始めました。半年後に飲食店の求人を紹介してもらい、働き始めました。初めは、環境に慣れずに休みがちでしたが、職場の理解も得ながら徐々に休みも減りました。母親は介護保険を申請し、ホームヘルパーに来てもらっており、今では充実した毎日を送っています。



Bさん(47歳男性) —貧困の連鎖防止のケース—

Bさんは、妻と娘の3人暮らし。飲食店を経営していましたが、不況のため廃業に追い込まれました。妻(46歳)は、夫が仕事を失って以来、パートを3つ掛け持ちしています。長女(14歳、中学校2年生)は、中学入学後、勉強についていけなくなり、学校を休みがちとなりました。

家族も含めた包括的な支援

私(Bさん)は、飲食店を倒産に追い込んでしまったことで、完全に自信を失い悲観的になっていましたが、働きたいという気持ちは持ち続けていました。支援員と話すうちに、飲食店を経営した経験が自分にとっての強みであると前向きに考えられるようになり、調理補助の正社員として就職することができました。私が仕事を開始したことで、妻はパートを1つに減らし、生活に余裕ができたことで、家族に対しても優しく接することができるようになりました。長女と一緒に過ごす時間が増えたことで、長女の生活習慣も改善されていきました。また、長女は「子どもの学習支援教室」に通うことで、高校に進学して、将来やりたいことを見つけたいと考えるようになり、担任教員の協力のもと、学校にも通えるようになりました。

生活困窮者自立支援事業

生活に困窮している方への相談支援

(自立相談支援事業)

生活をするうえでのさまざまな悩み、困りごとや不安についての相談を受け付けています。相談に応じてどのような支援が必要かを一緒に考え、具体的な支援プランを作成します。自立に向けて寄り添いながら支援を行います。



離職した方への就労支援と家賃補助

(住居確保給付金)

離職などにより住居を失った方、または失うおそれの高い方には、就職に向けた活動することなどを条件に、一定期間、家賃相当額を支給します。生活の土台となる住居を整えた上で、就職に向けた支援を行います。

中学生等の学習支援と居場所の提供

(子どもの学習支援事業)

生活困窮世帯の中学生等を対象とした学習支援教室を開催しています。大学生のボランティアが勉強を教え、おしゃべりなども交えながら、楽しく・安心して過ごすことができる居場所づくりをすすめています。

場 所 金沢市松ヶ枝福祉館

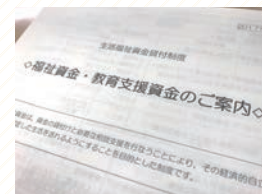
開催日 金曜日(毎週)・土曜日(月2回)

参加費無料・交通費全額補助(バス回数券支給)

※世帯の収入などに関する要件があります。

生活福祉資金貸付制度

低所得世帯、障害者世帯、高齢者世帯に対して、一時的に必要な費用などを貸し付けする制度です。



総合支援資金

失業した人等への生活費・住宅入居費等

緊急小口資金

一時的に必要な生活費

福祉費

療養費、住宅補修費、福祉用具購入費、介護サービス費、転居費等

教育支援資金

高校、大学等にかかる入学金・学納金等

不動産担保型生活資金

高齢者を対象に居住用不動産を担保に生活費を貸付

※資金の種類・目的・用途により、貸付対象や要件が異なります。資金の用途・必要性や償還の見通しなどを審査で総合的に判断し、貸付の可否を決定します。



学習支援ボランティア(大学生)にインタビュー

学習支援教室では、教育・福祉・社会保障等を学んでいる大学生のボランティアが、生徒の学力やペースに合わせて、勉強を教えています。年齢の近いお兄さん、お姉さんが勉強をサポートすることで将来の目標になるようにがんばっています。夏休みにはバーベキューなどのイベントも実施し、交流を深めています。

- Q1. ボランティアとして大切にしていることは？
Q2. 活動してうれしかったことは？

丸山 彩さん

(金沢大学学校教育学類4年)

- A1.「学習支援」という言葉にとらわれず、教室に来る子ども一人ひとりが息抜きできる場所になるようにと思います。
A2.「話せて楽になった」「また話聞いてね」と言われたことです。

張田 愛美さん

(金沢大学地域創造学類4年)

- A1.いつも笑顔でいることと、言葉づかいに気をつけることです。
A2.悩んでいる時に私のところに来て、逆に励ましてもらったこと。生徒が自ら望む学校に進学するために努力している姿を見ることです。

宮本 夏織さん

(金沢大学学校教育学類4年)

- A1.一人ひとりの子どもの時間を大切にすること、プライバシーを守ることです。
A2.数学が苦手な男の子が「数学も案外おもしろいかも」と言ってくれたことです。



社会福祉法人金沢市社会福祉協議会 金沢自立生活サポートセンター

TEL 076-231-3720 FAX 076-231-3560 Eメール support@kana-syakyo.jp 金沢市高岡町7-25 金沢市松ヶ枝福祉館2階